

西脇市 芳田地区
まちづくり計画の提案書
平成18年度版

平成18年11月

法太の里“ゆめ”委員会

平成18年11月

西脇市長 來 住 壽 一 様

法太の里“ゆめ”委員会
委員長 寺北 建樹

私たちが暮らす芳田地区は、1954年（昭和29年）に加西郡から西脇市に編入合併されて以来、純農村地域としての環境の良さ、人間関係の緊密さを保ちながらも、市街地から取り残された形で、過疎化が進行しています。

このような中、昨年10月、西脇市と黒田庄町が合併して〔新西脇市〕が誕生しました。市域の広域化により、政治的重心が移動し、芳田地区がますます西の端に追いやられてしまうのではないかとの不安が広がっています。

私たち《法太の里“ゆめ”委員会》は、このような不安を吹き飛ばし、子どもからお年寄りまで、“この地域に住んでいて良かった”と思えるようなまちづくりを、みんなで実践していくための羅針盤・未来図づくりに取り組んでまいりました。

この取り組みは、各町・自治会57名の委員さんに参加していただいて一昨年10月から始まり、月1回の定例会、まちづくりアンケート調査、タウンウォッチングなどを行ってまいりました。また、前半には兵庫教育大学の別惣淳二助教授をアドバイザーに、後半には樋口都市設計の樋口信子代表をコンサルタントにお迎えし、ご指導・ご助言をいただきました。

この計画書は、終着駅ではありません。今後の芳田地区のまちづくりをみなさんと一緒になって、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいくための始発駅であると考えています。

まちづくりは、一人では出来ません。しかし、一人からでも始められます。芳田の里が本当に私たちの誇りうる“まち”となるために、みんなで育んでいきたいと思えます。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

1	地区の特徴と課題	1
2	まちづくりの基本目標	8
3	まちづくり計画	
3-1	計画の主要項目	8
3-2	項目ごとの具体的な計画内容	
(1)	すばらしい自然を守ろう！	8
(2)	高齢者が元気で便利に暮らせるまちにしよう！	9
(3)	住みよいまちにして人を増やそう！人を呼ぼう！	10
(4)	みんなの応援で子どもたちをスクスク育てよう！	12
(5)	魅力ある特産品づくり、活力ある企業を誘致・育成しよう！	12
(6)	安全で安心なまちにしよう！	12
(7)	歴史・文化を見なおそう！	13
3-3	土地利用構想	14
4	アクションプラン	17
5	計画の推進に向けて	21
	〈参考資料〉①法太の里“ゆめ”委員会の活動記録	1
	②芳田地区まちづくりアンケートの概要	6

1 地区の特徴と課題

(1) 立地特性

① 地区概況

芳田地区は西脇市西南部にあって、面積は約18km²で市域面積約132km²の約14%を占めており、その大半は山地、農地である。人口は約2,500人であり、西脇市全体（約4万6千人）の約5%を占める。

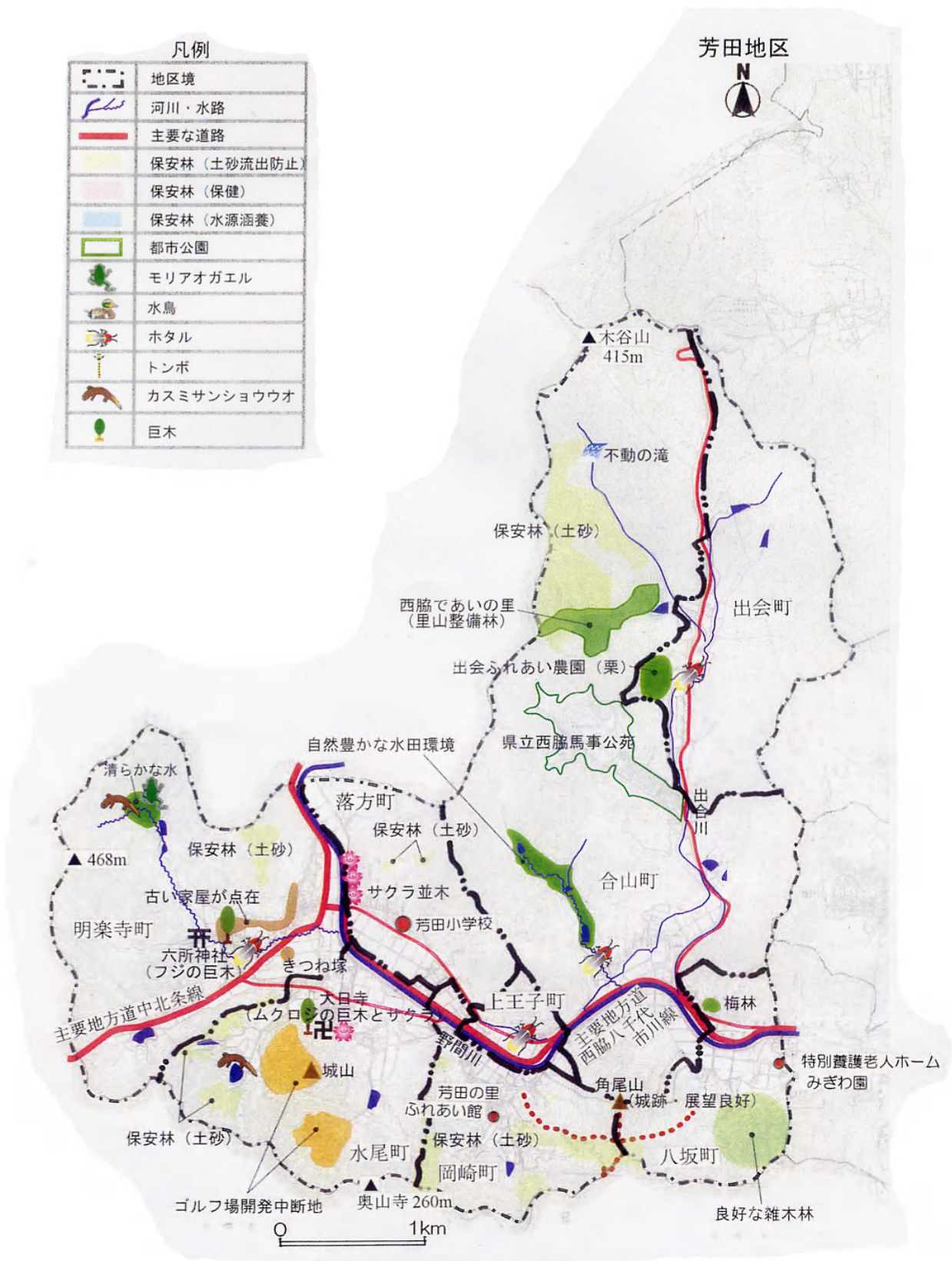
地区の中央部を加古川の支流である一級河川野間川が横断し、北東部から南流している一級河川出合川と地区東南部で合流している。集落地は主にこれらの河川に沿って分布しており、山地と山麓の農村集落及び農地がのどかな景観をつくっている。

鉄道はなく、市域中心部と多可町八千代区・加西市を結ぶ主要地方道西脇八千代市川線及び主要地方道多可北条線が、幹線道路となっている。公共交通としては、JR西脇市駅から多可町八千代区方面へのバスが1日6往復あるのみで、利便性は低い。

全城市街化調整区域で、山地には土砂流出防止の保安林が数ヶ所指定されているほか、農地はほとんどが農用地区域に指定されている。

当地区は全域が旧加西郡芳田村の区域であり昭和29年3月に西脇市に合併した。地区は、落方町・明楽寺町・水尾町・岡崎町・上王子町・合山町・新合山・出会町・八坂町の8町1自治会で構成されている。

■ 地区概況図



※西脇市環境基本計画（平成14年2月）156ページを元に作成

■農用地の指定状況



② 社会状況の特徴

■人口・世帯

芳田地区の人口は昭和から平成にかけて約200人ほど増加したものの、平成2年からは微減傾向にある。町別には合山町で若干の増加がみられる他は全ての町で減少となっている。世帯数は平成2年には650世帯であったが平成16年には875世帯に増えている。

■高齢者

高齢化率は平成16年で19.6%（八坂町の老人ホームを除く）で、市内8地区のうち野村地区に次いで2番目に低い値となっており、比較的若い人が多いと言える。合山町で高齢化率が低いのは馬事公苑宿舎の居住者が若い世代であるためである。

■人口・世帯数・高齢者率の推移

	世帯数		人 口		H2～12年の 増 減	高齢者率 (%) 平成16年
	平成12年	平成12年	平成7年	平成2年		
芳田地区合計	770	2,709	2,767	2,727	-18	※23.4
落方町	54	215	225	240	-25	21.9
明楽寺町	133	506	490	517	-11	23.7
水尾町	118	456	501	482	-26	25.3
岡崎町	102	345	360	368	-23	22.0
上王子町	12	40	45	41	-1	16.7
合山町	275	691	683	619	72	8.4
出会町	33	143	132	139	4	24.6
八坂町	43	313	331	321	-8	※62.2
西脇市全体	12,442	37,768	38,257	38,230	-462	22.3

資料：世帯数・人口は国勢調査、高齢者率は住民基本台帳及び外国人登録による（平成15年3月31日現在）

注：合山町には新合山を含む。人口・世帯数の西脇市全体には黒田庄地区を含まない。

※：八坂町には特別養護老人ホームみぎわ園があるため、高齢者率が非常に高くなっている。

みぎわ園の高齢者を除くと、芳田地区全体の高齢者率は19.6%となる。

■産業

事業所数は113と少なく、市内8地区の内最も少ない。商店数や工業統計における事業所も最も少ない地区である。事業所については2番目に少ない比延地区でも約200の事業所があることから、当地区の産業基盤は非常に脆弱であるといえる。

農業については農家戸数は198戸で市内8地区の内4番目に多い地区になっているがその大半は第2種兼業農家であり、専業農家は僅か10戸である。

■文化財

市内には39の文化財があるが、当地区には明楽寺町に下記に示す2つの文化財がある。

- 六所神社のフジ（西脇市指定文化財・天然記念物）
- きつね塚古墳石棺（兵庫県指定文化財・考古）

(2) 地区の課題の整理

地区の現状やアンケート調査、委員会での議論をふまえたまちづくりの課題を以下に示す。

○評価の高い自然環境、今後はもう一工夫必要

地域の外周を囲む山の美しさや野間川の美しい流れ、のどかな田園風景などに対しては地区の良いところとして評価する意見が多い。次世代にこの豊かな自然を引き継いでいけるよう、自然環境の保全に努める必要がある。

しかし、アンケート調査では、野間川の親しみやすさについては意外と評価が低く、親水空間等の整備が必要と考えられる。また山の案内板の不足、山中へのゴミ捨て、開発による山の景観の変化などについては批判も多く、改善が必要である。

○高齢化社会への対応

芳田地区の高齢者比率は老人ホームを除けばそれほど高くないが、全国的な傾向と同じく、今後高齢化社会を迎えることは明らかである。このため、高齢者が活動する場や施設が少ないとの指摘もあり、高齢者が安心して暮らせるような助け合いや、通院・買い物などのための交通手段の確保を望む意見も多い。

高齢者の生きがい・自立施策や活動しやすく安心して暮らせる生活環境づくり等に取り組む必要がある。

○人口の停滞、減少傾向への対応

地区の人口は停滞～減少気味であり、地区の活性化のためには定住人口を減らさず、新規居住者のある程度受け入れる必要があると考えられる。若者向けの住宅地開発を望む意見もあり、市街化調整区域ではあるものの、検討を行う必要がある。

○生活の利便性の向上

現状の生活において、日常の買い物ができる店舗や行政の窓口がないことや医療機関がほとんどないことなどに対し、不満が多い。新たな定住人口を求めるにもこうした利便施設・公共公益施設は必要不可欠と考えられる。

また高齢者や若年者にとっては公共交通が必要不可欠であり、その充実が求められる。さらに、公園や子どもの遊び場に対しても不満の声が大きく、スポーツや憩い、レクリエーション、集会施設などの充実も求められる。

○生活習慣等の見直し

暮らしやすさには施設等のハード面の充実だけでなく、社会活動のしやすさや参加しやすいコミュニティなども重要である。「役員の顔ぶれが同じになりがちである」、「もっと男女共同参画を進めるべき」、「伝統的な生活習慣が負担である」等の意見も聞かれることから、新しい形のコミュニティづくりへのチャレンジも必要と考えられる。

○子育てや教育の充実

高齢化と同様に少子化も全国的な傾向であり、当地区でも屋外で遊ぶ子どもの姿を見かけることが少なくなったとの指摘もある。

アンケートでも子育てをしやすい施設の整備やふれあい活動の充実、公園やスポーツ施設の整備については「重要」と考える人の割合が高くなっている。学童保育等の充実を望む意見も多く、施設面、子育てサポーター等の人的な面、両者合わせて「地域で子どもを育てる」といった取り組みが求められていると言える。

小学校の教育に関しては地域との交流が行われていたり、少人数制で充実している等のプラスの評価が聞かれ、今後ともこのような面での充実が望まれる。

○産業の育成意欲の高揚

当地区の特徴として、事業所が少なく農業以外に目立った産業がないことが挙げられる。アンケートでも特産品開発や企業誘致について重要視する意見はあまり多くなく、半ばあきらめの境地にある人が多いのではないかと推察される。

しかし、米やイチゴ、クリ等は評価が高く、特徴のある農産物の育成・販売や貸し農園の整備、地場の材料を使った特産品づくりを望む意見も強い。また地区内での就業の場を求める意見もあり、産業誘致や産業育成についても何らかの対策が必要と考えられる。

○安全で機能的な道路の整備、災害対策の充実

通学路となっている県道について一部区間で歩道がなく大変危険な状態になっている。また、緊急時に迂回できる道路のない区間があり、体系的な道路網の検討と整備が必要である。

また、街灯がなく危険であったり、車がスピードを出しすぎたりすることに対する苦情も多く、街灯整備やスクールゾーンの設定による安全通行の呼びかけなどの対策を講じていく必要がある。

自然災害等に対しても、重要視する意見が多いことから、地震・水害・火災等に対する対策の強化が求められる。

○防犯活動、防犯対策の充実

昨今、全国的に凶悪な犯罪が増えており、西脇市においても不審者対策が講じられている。一人暮らしの方々への声かけや子どもを見守るシステムの構築、パトロール活動の強化などが求められる。また夜道が暗いといった指摘もあり適切な街灯の整備も必要と考えられる。

○地区の誇りとして守りたい歴史や文化

各町に公民館や神社・お寺、祭りがあり、地区の誇りであるという意見は多い。しかし、観光・名所づくりを重要視する意見は少なく、これらの歴史・文化資源については大げさなアピールや観光地化を狙うのではなく、あくまでも地域で大切にしていこうという意欲が感じられる。しかし、「現状では雑草だらけである」、とか「案内板がない」、「昔あった祭りがなくなってしまった」、という指摘もあり、もう一度地域の歴史や文化を再認識し、魅力ある行事等の開拓を行うことも必要と考えられる。

○官民協働まちづくりへの理解と意識醸成

アンケート調査では、「住民参加」への積極的な参加意欲のある人は少ないものの、「内容によっては参加したい」、「可能な範囲で参加したい」という人は約6割もあり、過半の住民には協働のまちづくりが理解されているものと考えられる。

一方「関心がない」、「わからない」、「回答なし」も約4割と相当数あることから、今後も行政と役割分担を図りつつ、自分たちのまちを自分たちで考え、できることは自分たちです、という参画と協働のまちづくりに対する基本認識に対する理解を深め、その手法等について学習していく必要がある。

2 まちづくりの基本目標

地区の特徴ある豊かな自然、人々のふれあいを活かし、少子高齢化や産業の充実等の課題を克服すべくまちづくりの目標を以下のように設定した。

好きです！自然 もっと好きです!!思いやり
生き活きとみんなで創る 緑の里・法太

3 まちづくり計画

3-1 計画の主要項目

まちづくりの基本目標を達成し、ワークショップでの議論及びアンケート調査結果から導かれた数多くの課題を解決するため、地域で取り組むべきまちづくり計画の主要な項目を整理する。

地域の大きな課題としては、少子・高齢化への対応、自然環境の保全、働く場・収入の確保、コミュニティの活性化、地域の歴史・文化の保全が挙げられるが、今後、地域住民が力を入れて推進すべき事項を計画の主要項目として検討し、数回の話し合いを行い、以下のように設定した。

- (1) すばらしい自然を守ろう！
- (2) 高齢者が元気で便利に暮らせるまちにしよう！
- (3) 住みよいまちにして人を増やそう！人を呼ぼう！
- (4) みんなの応援で子どもたちをスクスク育てよう！
- (5) 魅力ある特産品づくり！活力ある企業を誘致しよう！
- (6) 安全で安心なまちにしよう！
- (7) 歴史・文化を見直そう！

3-2 項目ごとの具体的な内容

(1) すばらしい自然を守ろう！

① 山の自然を守り育てよう

- モリアオガエルやウツボグサ、ホタルなど地区内には貴重な動植物が随所に分布している。こうした場所にはむやみに人が入らないようにし、動植物の生息・生育環境を今後とも大切に保全していく。
- 出会町や八坂町には良好な里山があり、特に出会町の里山は「西脇であいの里」として整備されている。人々の生活と関わりが深く、豊かな生態系の宿る里山をみんなで力を合わせてしっかりと管理していく。また、荒れている里山についても、ボランティア活動や環境教育活動、レクリエーション活動等と連動させ、極力、芳田全体の里山が復活するように努める。
- 出会町でかつて行われていた「里山祭り」の復活を検討する。検討に当たっては地域住民に過大な負担がかからないよう配慮する。
- 角尾山への登山が楽しめるよう、登山ルート上に自然を活かした休憩所や案内板を整備する。

- 身近な自然に気軽に触れられるよう、自然環境に細心の注意を払いつつ、アウトドアライフの楽しめる空間を整備する。
- 水尾町のゴルフ場開発跡地は、景観的に課題があるため、緑化等に努め、山林の再生を図る。

② 川の自然を守り育てよう

- 野間川の河川空間は高く評価されており、地域シンボルとしてみんなに親しまれている。
 - ・河川公園等として親水空間を整備し、親子のふれあい場所、川遊びや魚釣りができる場所、泳げる場所を作っていく。
 - ・野間川沿いには現在も桜並木があり、春には美しい景観が見られる。
 - ・堤防の全区間にわたり桜並木や春はナノハナ、初夏にはアヤメ、秋はコスモス等四季の花が楽しめるような魅力ある美しい河川空間を創る。
 - ・川の水の色が悪いという指摘もあり、水質の管理・保全に努める。
 - ・野間川に生息するヌートリアについては、生態系に対する影響等を十分調査し、必要な措置を講じていく。

③ 里の緑、集落の趣を大切にしよう

- 野間川沿いに広がる農地は、山田錦の産地であり、のどかな田園風景に魅力を感じる人も多い。水田や畑の維持管理を怠らず、また安易な農地転用は慎み、美しい田園風景を維持していく。
- 伝統様式の家屋が連なる集落景観を大切にし、家の建て替え等に当たっては集落景観に調和するよう配慮する。

④ すべての空間についてクリーンアップ事業を展開しよう

- 美しい自然や景観もポイ捨てのゴミや犬のフンだらけでは台無しである。このため、既存の団体等に呼びかけ、清掃や美化活動などを推進する。またゴミステーションのデザインなどにも配慮する。

(2) 高齢者が元気で便利に暮らせるまちにしよう！

① いつまでも「生きがいをもつて、健康に暮らそう

- 適度な仕事や活動、スポーツ等に生きがいを見いだすことは、寝たきり老人になりにくいといわれている。高齢者を対象にした産業や活動のメニューを研究し、外出やふれあいの機会を増やすように努める。また、活動や共同作業等ができる場として公園やふれあい館、集会所等の施設も充実していく。
 - 例：・地区独自の知恵と技を伝える高齢者の達人マップと小学校等での達人授業を行い、地域への愛着を育むとともに世代間交流を促す。
 - ・徳島県上勝町のように、特産物づくりに生きがいを見いだしてもらい、いつまでも生き活きと美しく暮らす。
- 地区内に医療施設が少ないことから、芳田の里ふれあい館等の施設でも簡単なリハビリや寝たきりの老人の入浴等ができる設備の設置を検討する。

② 気軽に助け合おう

- 高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も増えてくると考えられる。近隣住民で声

を掛け合い、必要な時は介護の手助けをし、出かけるときに付き添うなど、助け合いのシステムをつくる。

③ 便利な暮らしをサポートしよう

- 車の運転ができない高齢者が、病院や買い物に行くのに、福祉タクシーやコミュニティバスがあると便利である。運送法等との関連も調査しながら検討を行う。

④ 3世代居住を推奨しよう

- 最近では別居が当然のようにになっているが、多様な世代と一緒に暮らすことで思いやりや気配りができるようになる。このため3世代居住を推奨し、3世代居住のために住宅を改造する場合は助成金・技術援助等の支援が受けられるような制度について検討する。

(3) 住みよいまちにして人増やそう！人を呼ぼう！

(便利で、暮らしやすいまち)

① 定住人口を確保しよう

- 芳田地区の人口は停滞気味であり、著しい減少傾向は見られないが、今後は徐々に減少していくものと考えられる。地域コミュニティの活気が出るためには、一定の新住民の居住や定住人口を減らさぬことが肝要である。このため、都市計画法の範囲で一定の住宅建設を認めてもらうよう検討を行う。
- 特に、若い世代の居住のためには公営住宅や企業の寮の存在が効果的であるので、市全体の住宅政策の一環として建設や誘致の検討を提案する。また、若い人の結婚を支援するため、公的なお見合いパーティーの開催、新婚家庭へのプレゼントなど、若年世帯の形成・定住に関するソフト施策についても検討していく。

② 交流人口を増やそう

- 定住人口の確保への足がかりとして、地域外からも人を呼び込み、芳田の魅力をアピールすることが重要と考えられる。このため地区全体規模のイベントや祭り、大会などの開催を検討する。また、大規模なイベント等が開催できるグラウンドの整備を推進する。
- また、イベント等の他にも一定期間芳田に滞在し自然や農業に親しめる施設や仕組みを検討する。

例：クラインガルテン

森の学校

③ 地区内で日常的な買い物ができ、行政サービス・医療が受けられるようにしよう

- 平成16年にスーパーマーケットが閉店してから、地区内に日常の買い物ができる店舗はまったくなく、住民は不便な生活を強いられている。商圈構成等から判断すると、通常の店舗経営は極めて難しいと考えられるため、地域住民と民間企業、農協等が連携し、地域住民の生活支援のためにスーパーマーケットまたはコンビニエンスストアのような店舗の経営について検討していく。これについては、農協（旧スーパーマーケット）の建物が残っているため、有効利用を検討する。

- 市役所支所・サービスコーナーの設置について、全市的な課題として検討を依頼する。
- 医療機関の不足については、病院とタイアップした通院の利便性確保、公共医療機関による往診システム等について検討していく。

④ 魅力ある集客施設を創ろう、活かそう

- 日常の買い物も大切ではあるが、農業の振興や特産品づくりの振興のためには、地区内でとれた野菜等を西脇市の市街地や他地区の人が気軽に買ったり、味わったりできるような施設も必要である。
このため加西～八千代間の県道沿いに「道の駅」のような施設の設置を検討する。また、③の日常的な買い物ができる店舗との併設も考えられるため、場所等については慎重に検討する。
- 現在、各町には公民館があり、岡崎町には市職員の常駐する「芳田の里ふれあい館」もある。今後も、趣味や特技・教養のために気軽に利用ができ、各世代をつなぐイベントも開催できる場所、いつでもみんなが集まって様々な話が気軽にできる場所として、ハード・ソフト両面で充実を図る。
- 馬事公苑の公園施設は、近年閉鎖されたままであるが、周辺には栗園等もあることから、地域住民で維持管理できる集客施設、新たな観光産業につながる施設整備等を検討し、活用を図る。
- 集客施設のひとつとして、ナイターなどもでき、近隣地域や広域からの利用も見込めるグラウンドを整備する。

⑤ 交通の利便性を高めよう

- 地区内の公共交通は、バス6往復のみで、ほとんどないに等しい。車の運転ができない高齢者や子どもにとっては、相当不便な地区となっている。
高齢者の通院や買い物、子どもの送迎等を目的とした、地域ぐるみで外出を支援するシステム（地域タクシー、福祉タクシー、コミュニティバス、乗り合い推進活動など）について研究する。

⑥ 体系的な道路網の整備を推進しよう

- 地区内を通る幹線道路である県道西脇八千代市川線については、歩道の未整備区間があり、中学生・高校生の通学等に危険な状態であるため、早急に整備を要望する。
- 野間川の右岸道路については、緊急時の迂回路として機能するよう、岡崎橋からみぎわ園の区間の整備を要望する。
- 合山町・出会町を通り、日野地区に抜ける市道合山出会線・木谷山線は幅員も狭く、山間部では線形も複雑で危険な箇所があるため、改良を要望する。

⑦ 自由に話し合える風通しの良いまちにしよう

- 古くからの生活習慣について、みんながわずらわしさを感じているものについては、改善や廃止に取り組む。
- また、新たな社会活動団体を形成するなど、誰でも気軽に発言できるコミュニティづくりに取り組む。

(4) みんなの応援で子どもたちをスクスク育てよう！

- 最近の社会状況から、「少子化」、「子どもの生活スタイルの変化」、「核家族化で子育ての相談相手がいない」、「世代間交流が図りにくい」など、子育てに関する様々な課題が指摘されている。このため、あいさつ運動をはじめ、子育てを支援するサポーター制度等について検討し、地域ぐるみで子どもを育てるようにする。特に、比較的時間にゆとりがあり、知識や技術のある退職者層の参画を促す。また、併せて学童保育の充実を図る。
- 学校教育や子ども会、学童保育などの中で、地域の人材を活かし「芳田の達人講座」等を開くことで、芳田独特の知恵や技を学び、地域への愛着を育むとともに、世代間交流を促す。また、公園などの遊具は極力地場産の木材を使ったものとし、草花を使った遊びの伝授など、豊かな自然を生かした情操教育に努める。
- 子どもの保育・ふれあい・教育活動等の場として、小学校や旧農協の建物の利用が考えられる。また、こうした施設に近接して、子どもがのびのび遊んだり、スポーツをしたりできるグラウンドがあると好ましい。したがって、小学校、農協跡地、グラウンド整備候補地一帯を子育てやふれあいの拠点と位置づけ、整備を推進する。
- 少子化対策として、3人目の子どもからは出産祝い金や、高校・大学奨励金制度などについて市全体の施策として検討を要望する。
- 最近、子どもを狙った悪質な犯罪がふれていることから、サポーター制度とも連携し、登下校時の安全パトロールや通報システム、公園等の監視などを実施していく。安全パトロールについては、子どもみまもり隊としての活動を発展・継続していく。

(5) 魅力ある特産品づくり、活力ある企業を誘致・育成しよう！

- 当地区には事業所が非常に少なく、人口流出をくい止めるためにも、自宅から通える範囲で、一定の企業誘致が必要と考えられる。地元の雇用創出や産業振興のために、農産物の加工販売や、木材・竹等を使った特産品づくりなどに関連する企業の誘致・育成に取り組む。
- 無農薬野菜、イチゴやクリなどのブランド化の検討を積極的に行い、商品価値の高い農産物を販売できるようにする。
- 観光農園や木谷山キャンプ場等の施設の充実や積極的なPRを行い、観光・レクリエーション産業についても再検討していく。

(6) 安全で安心なまちにしよう！

- 地域の治安維持のため、隣近所で日常的に声を掛け合い、安全を確認する運動を推進する。具体的には、消防団や老人会、地区住民の自主的なパトロールや門灯の点灯等を心掛け、最近では凶悪犯罪も多いことから、地元警察と連携し、通報システムやいざというときの対処方法を学んでおく。
- 道路の安全な通行に資するため、交通マナーの遵守を呼びかけ、安全運動を盛り上げる。
- 地震・水害・火災等に備え、避難路、避難所を記したハザードマップを作成し、防災訓練に取り組む。

- 新合山・出会町方面に至る道路には街灯が少なく、夜の安全性に問題がある。この道路は小中学校への通学路ともなっており、特に、冬季は下校時間には暗くなるため、街灯の整備を行う。
- 上記の道路沿道には樹木が生い茂り、見通しが悪く危険な箇所がある。この場所に限らず、道路沿いの庭木や生垣、樹林地の樹木は歩行者や車が安全に通行できるように所有者の責任において管理する。

(7) 歴史・文化をみなおそう！

- 地区には神社仏閣、池、山、街道など歴史・文化資源がたくさんあるが、適切に維持管理されているとはいいがたく、伝統行事等についてはすたれてしまったものもある。
もう一度、地域の歴史や文化、伝統を見直し、次世代に伝えるため、子どもたちや技術をもつ人を中心に、手づくりで案内板・看板の制作や取り付け、伝統行事の復活を試みる。
また、他地区とも連携し、西脇市全体の歴史文化の保全とPRのため、イベントを企画したり、歴史的な趣を演出する道路・公共空間の整備、各種施設の整備について検討する。

3-3 土地利用構想

上位計画・関連計画や土地利用の現状を踏まえつつ、3-2で示した計画の内、地図上に表現できる内容を「土地利用構想」として図化する。

(1) 幹線道路・補助幹線道路、歩行者用道路、河川

- 県道西脇八千代市川線、主要地方道多可北条線は幹線道路として人も車も安全に通行できるようにする。
- 出合川沿いに日野地区へ抜ける市道合山出会線・木谷山線については、十分な幅員の確保や線形の改善を行い、当地区と日野地区を結ぶ補助幹線道路として機能するようにする。
- 芳田小学校前を通る旧県道及び水尾集落を通る旧県道は、補助幹線道路として必要な部分の整備を検討するが、通常は通過交通が発生しないよう、交通規制等についても検討していく。
- 岡崎町から八坂町にかけて、補助幹線道路として、野間川右岸に幅員6m程度の車が対面通行できる道路に改良する。みぎわ橋までの区間は、自然環境に配慮しつつ緊急時には車が通れるような整備の方法を検討していく。
- 市民をはじめ、都市住民のレクリエーション活動に資するよう、西脇であいの里や馬事公苑を結ぶ散策路、角尾山に至る登山道及び沿道の案内板や園地の保全整備に努める。
- 野間川は地域の緑水軸であり、水質の保全や堤防の管理に努めるとともに、八坂町のみぎわ園周辺は自然環境を大切にしたい親水空間として保全・整備し、地域住民の憩いの場として活用を図る。また、桜並木や四季の花が楽しめるような空間を積極的に創っていく。

(2) 土地利用、施設整備

■山間部

- 保安林や貴重な動植物等が分布する山林を「美しい森」とし、自然環境の保護に努める。
- 水尾町のゴルフ場開発跡地については地区住民の協力のもと、緑の復元に努め、「美しい山林」の一部となるようにする。
- 雑木林が残り、「里山」として機能しているエリアについては、今後ともその維持保全に努め、レクリエーションや環境教育等にも活用していく。

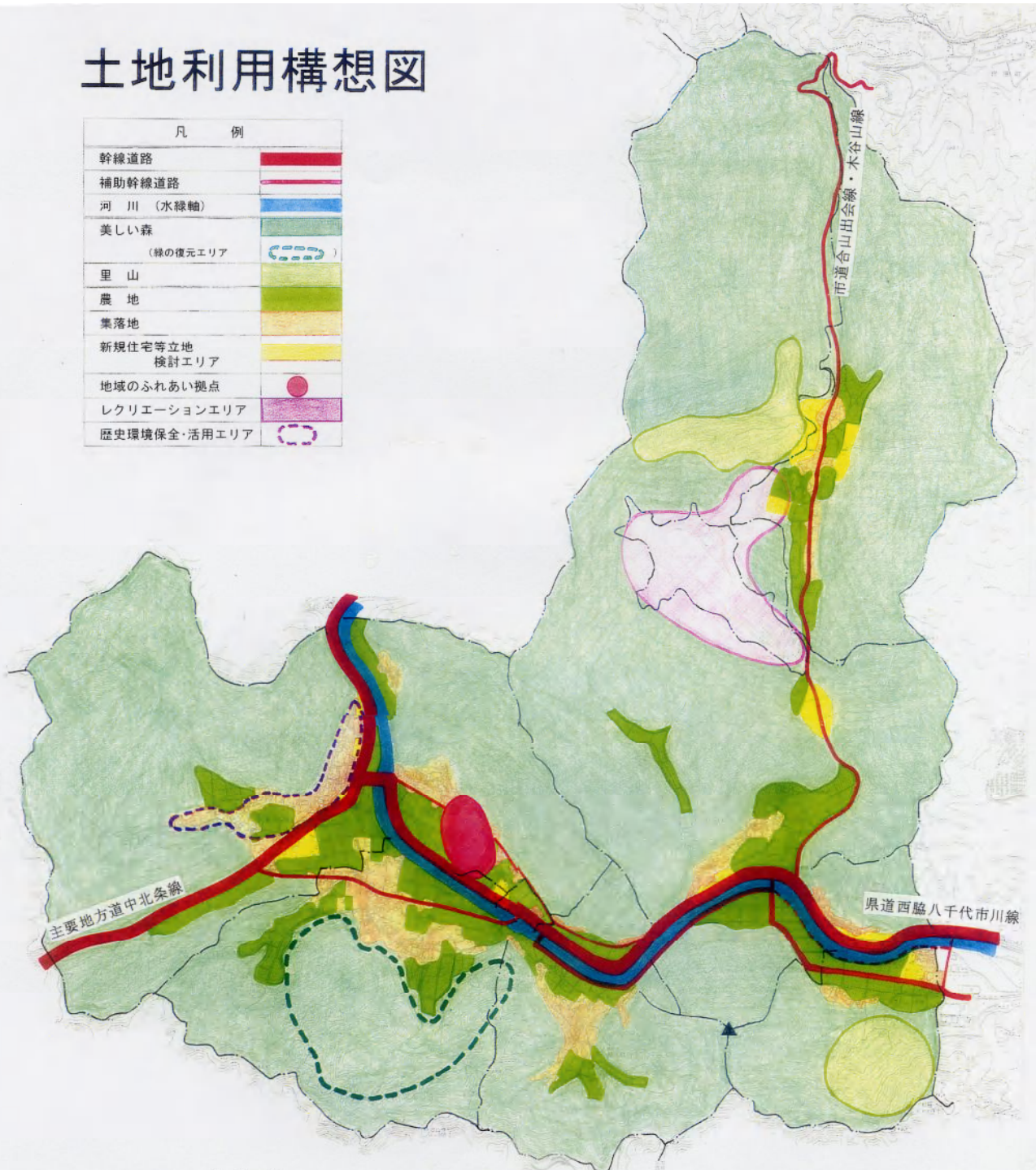
■里部

- 古くからの集落地一帯は、道路や下排水などの生活環境の整備を進めつつ、趣のある集落景観の保全に努める。また、過疎化に伴い新たな定住者を受け入れるため、都市計画法の市街化調整区域における開発許可の弾力的な運用を図るよう要望していく。
- 集落の外周部で農用地指定がなく、地形的にも住宅等の立地が可能と考えられるエリアについては、「新規住宅等立地検討エリア」とし、公営住宅や新規居住者のための住宅の建設や新たな産業立地を検討する。
- 芳田小学校一帯をスポーツ施設やコミュニティ施設、福祉施設、利便施設、住宅のある「地域のふれあい拠点」として位置づけ、公益施設の整備等を要請・誘致

- するとともに事業に協力していく。このゾーンについても都市計画法の市街化調整区域における開発許可の弾力的な運用を図るよう要望していく。
- 日常の買い物ができる店舗や道の駅を、誘致することを検討する。
 - 「地区内住民のふれあい」、「子どもたちのスポーツや遊び」、「他地区の住民との交流」などが行える一定規模のグラウンドを小学校近くに整備する。このグラウンドも含めて「地域のふれあい拠点」とする。
 - 馬事公苑は、周辺部の栗園などのレクリエーション施設と連携して、観光客等呼び込むよう再整備し、公園の再開を検討していく。
 - 地区内に点在する神社や寺を大切に保存する。特に明楽寺町は伝統様式の住宅等が多く残っており、丹波道にも旧街道の名残が見られる。また、六所神社のフジの巨木も有名であることから、重点的に集落景観や道路空間の整備、案内板や来訪者用のトイレ、休憩所を整備するゾーンとする。
 - 野間川沿いや各集落周辺に広がる農地については、広く農用地に指定されていることから、特産品栽培によるブランド化や無農薬栽培等に取り組みつつ、その保全に努める。

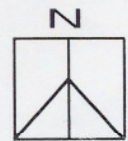
土地利用構想図

凡 例	
幹線道路	
補助幹線道路	
河川 (水緑軸)	
美しい森 (緑の復元エリア)	
里山	
農地	
集落地	
新規住宅等立地 検討エリア	
地域のふれあい拠点	
レクリエーションエリア	
歴史環境保全・活用エリア	



加 西 市

尾 野 町



1:30,000

4 アクションプラン

数多くの部門計画のうち、「法太の里“ゆめ”委員会」での話し合いの中から、地域にとって最重要と考えられる計画を「アクションプラン」として抽出し、具体化に向けて検討を行った。

抽出に当たっては、地域の公共性（必要性）、緊急性の高いもの、という観点から6項目を抽出し、さらにもう一度、上記視点から上位3つを抽出した。

具体化に当たっては、5W1H（**when**=いつ **where**=どこで **who**=だれが **what**=何を **why**=なぜ **how**=どのように）が重要であることから、検討段階とはいうものの、極力、関係者・関係機関の意向把握を行い、プランを策定した。

<上位3項目>

(1) コミュニティバス・タクシーの検討

when : できるだけ早い時期に

where : 利用対象者は芳田地区全体

サービス範囲は西脇市内全域または芳田の里ふれあい館から一定の半径の地域をカバーする。

who : <利用者>地区住民(交通弱者支援を主とし、高齢者や障害者に限定しない)
<運転手等>有償ボランティア、登録者

what : 買い物、通院・通学等の送迎など、タクシー方式とする。

why : 地区住民の利便性の確保

how : 第1期: 芳田ふれあい会議で委員の選出・募集

法制度の研究、事例研究、需要調査（市と協働）

・需要の有無や運営方式（全戸から会費を徴収してNPO法人として運営する、補助金で運営する、タクシー会社と連携する、地域通貨方式で運営する等）について専門的な調査・検討を行う。芳田だけでなく市内で同じような課題を抱える地区全体で行う。

↓

運行システム・料金体系等の検討

↓

運転者スタッフの募集、車の確保

↓

試験運行

↓

本格事業化見通しの判定

(2) グラウンド整備

when : 早急に

where : 小学校周辺

who : 整備は行政主体。軽微な工事には住民も協力する。

運営は、スポーツ21、老人会、子ども会をはじめ全住民

what : 多目的グラウンド兼災害避難所（防災倉庫）の整備

why : 地区内のみんなが参加できるイベント空間・スポーツ設備が欲しい。
地区外の人も参加できる広域的な行事が開催可能な場所が欲しい。

芳田小学校の第2グラウンドとしても利用できる。

芳田小学校のグラウンドは非常に狭く、「みんなが集える広いグラウンド」は30年来の芳田地区の悲願である。

- how** : ・用地を市に買収（又は借り上げ）してもらう。地元では土地所有者への説得に協力、整備事業の内の軽微なものについては労力提供を行う。
・維持管理について、行政と地元との役割分担を明確にし、公民協働で取り組む。

第1期：芳田ふれあい会議で整備推進委員の選出及びボランティアスタッフの募集
代表者（責任者）の選出
年間運営・維持管理計画、イベント企画の立案

市の用地買収等も同時に進める

↓
チラシ等作成
↓
イベント実施
↓

↓ 工事
整備完了

第2期：第1期の状況を見て、反省・再検討を行い、新たな運営組織・方法等について検討していく。

(3) 川、花いっぱいプロジェクト

when : 花の季節にあわせて（年2回植え替え）

where : 既存の花壇と併せて、まちづくりの拠点（グラウンド付近）を中心にしてさらにエリアを広げる。
みぎわ園にも提供する。

who : ボランティア、花と緑の協会（芳田版）、老人会、学校等とタイアップ。花やガーデニングが好きな有志。町ごとにスタッフを確保する。

what : 手づくりプランターで花づくり、木工の達人を発掘し、ベンチなどをつくる。

why : 花・緑あふれる美しいまちをつくる。
地域の高齢者等の生きがいとする。

how : 第1期：まちづくり委員会花部会などへの呼びかけやスタッフの募集とこれまでの活動の整理（市も協力）
花づくりなどの達人（芳田の住民）を発掘し、指導者になっていただく。

- ↓
- ・代表者（責任者）の選出と既存団体の役割分担等の調整を経た体制づくり
 - ・清掃活動・美化活動、技術の習得や伝授の企画案、年間行動計画案の作成
- ↓
- ・費用負担（会費の徴収等）の調整、行政支援の有無確認
- ↓
- ・行動開始：楽しみながらやる

<その他3項目>

(4) スーパー、店舗、道の駅

① 地元住民の利便性を目的とするプラン

when : できるだけ早く

where : 幹線道路沿い、またはJ A跡を利用

who : 地元住民、専門業者

what : 食品・日用品

why : 地域住民の利便性の向上を図る。特に車で買い物に行けない人を支援する。

how : 第1期: 芳田ふれあい会議で整備推進委員の選出及びボランティアスタッフ、参加業者・企業の募集、代表者(責任者)の選出



企業や農協等の協力を得て企画案作成

② 活性化のための集客施設として位置づけるプラン

when : できるだけ早く

where : 幹線道路沿い、またはJ A跡を利用

who : 地元住民、区長会など、有志のグループ

what : 地元野菜・有機野菜の販売、手づくりの日用品、クリ・ダイコン・芳田の露地物、道の駅のような内容

why : 農業等の振興

参加者に生きがいを見つけてもらう。

地区住民のコミュニケーションを高める。

how : 第1期: 芳田ふれあい会議で整備推進委員の選出及びボランティアスタッフの募集、販売したい人を探す。代表者(責任者)の選出



野菜販売等の協力農家の募集(当初)



農協等の協力を得て企画案作成

(5) 右岸道路

when : 堤防の管理用道路: 平野井堰の工事にかかるとき、災害対策の一環としての事業が行われるとき、合山側(市・県)の舗装のとき
できるだけ早く

岡崎橋からの一般道路: なるべく早く

where : 岡崎橋～みぎわ園、河川堤防

who : 県・市・権利者

what : 堤防の管理用道路: 通学路・スポーツや散歩を楽しめる歩行者用の道路として整備。緊急時には車の通行もできるように検討する。

岡崎橋からの一般道路: 幅員6m程度の道路として整備

why : 堤防の管理用道路: 野間川の自然が残る区間であり、地域住民等に憩いの空間として気持ちよく使ってもらうため。

岡崎橋からの一般道路: 県道西脇八千代市川線で事故や災害等があった場合、岡崎町から八坂方面に至る車の対面通行のできる道路がないため。

- how** : ・堤防の管理用道路については、県の河川整備等にあわせて、順次快適な歩行者空間として整備してもらうよう要望する。
・一般道路については市の計画の中で、当該道路の整備を位置づけ事業を推進するよう要望していく。地元は権利者への説明や合意形成に努力する。

(6) マップづくり

- when** : 実行メンバーが確定しだい、できるだけ早く
where : マップの対象範囲は芳田地区全域。作業場は適宜
who : 地元住民の有志及び芳田ふれあい会議のメンバー
what : うまいもんマップ、史跡マップ、観光マップなどを作成する。
why : 地区住民に自分たちのまちの良さを知ってもらう。
地区外の人々に芳田の良さを知ってもらい「お客」を増やす。
how : 第1期：芳田ふれあい会議で整備推進委員の選出及び有志募集

↓

情報収集、企画・編集、マップの案作成

↓

印刷・配布

5 計画の推進に向けて

① 公民協働のスタンスの確立

まちづくり計画の内容は多岐にわたり数多くの項目が設定された。

これらの中には、行政が主体となる計画の検討や計画の実施を依頼していくものもあるが、大半が行政と地域住民との協力・連携のもとに推進していくべきものであり、コミュニティ活動やイベント・産業活性化のように地域住民だけで積極的に取り組むべき内容も多い。

アンケートでは、まちづくりに積極的に参加したい・可能な範囲で参加したいという人が約2/3となっていることから、その意欲を尊重し、自主的な学習や行動を促す。また、これに対する専門家派遣や資金的・技術的支援を行うシステムの充実を市に要請する。

これまで、「まちづくり」というと行政への要望・陳情のように捉えられがちであったことから、市域全体の取り組みとして、行政や他の地区とも連携を図りつつ、人材育成や活動支援システムを検討していく。

② 身の丈にあった取り組みの推進

今回の計画は、約2年にわたる委員会活動やアンケートをもとに作成したものであり、相当むずかしい内容のものもある。

また、施設整備等にあたっては、維持管理・運営面での経年的な検討ができていないものが多い。

したがって、将来、地域住民に負担がかかると予想されるものについては、結果を急ぐのではなく、十分な検討を行ってから実施することが望まれる。

③ 取り組み結果のフィードバックシステムの確立

この計画では、数項目の取り組みをアクションプランとして抽出し、早期に実施していくことにしている。

アクションプランはほとんどが地域住民が自主的に取り組む内容であるため、芳田ふれあい会議などの組織を中心に、すぐにでも試行・実行が可能であると考えられる。

理論や制度の確立、計画の体系化等に時間とエネルギーを費やすよりも、実際の取り組み結果を評価・反省し、次の行動・活動につなげていくことが肝要であり、その結果を適宜この計画に盛り込み見直していく姿勢をとるものとする。

<参考資料>

- ①法太の里“ゆめ”委員会の活動記録
- ②芳田地区まちづくりアンケートの概要

1 法太の里“ゆめ”委員会の活動記録

平成16年度

(1) 第1回検討委員会

- ① と き 平成16年10月15日(金) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・計画策定の趣旨及びスケジュール説明
・ワークショップ
テーマ：芳田のまちづくり計画を立てていくこと
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：ワークショップとは？
芳田地区の良いところ、悪いところの抽出

(2) 第2回検討委員会

- ① と き 平成16年11月5日(金) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・委員会の名称、規約、役員の決定
・ワークショップ
テーマ：芳田地区の良いところ悪いところ
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：芳田地区の良いところ、悪いところの抽出

(3) 第3回検討委員会

- ① と き 平成16年12月6日(月) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：芳田地区の課題抽出
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：シナリオライティングによる課題抽出
(家族の10年後を具体的にイメージしそこから課題等を検討)

(4) 第4回検討委員会

- ① と き 平成17年1月11日(火) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：芳田地区の課題抽出
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：シナリオライティングによる課題抽出
(家族の10年後を具体的にイメージしそこから課題等を検討)

(5) 第5回検討委員会

- ① と き 平成17年2月7日(月) 午後7時30分から
- ② ところ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：子育てを考える
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：シナリオライティングによる課題抽出
(家族の10年後を具体的にイメージしそこから課題等を検討)
芳田小学校長 仲 田 保 弘 先生
西脇南中学校長 長谷川 大一郎 先生
から子どもの学校生活等に関する話題提供

(6) 第6回検討委員会

- ① と き 平成17年3月7日(月) 午後7時30分から
- ② ところ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：子育てを考える
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：あなたの身の回りのことについて課題の整理

平成17年度

(7) 第7回検討委員会

- ① と き 平成17年4月5日(火) 午後7時30分から
- ② ところ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：子育てを考える
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：あなたの身の回りのことについて重点課題の抽出
5W1Hを用いて課題の解決策の検討

(8) 第8回検討委員会

- ① と き 平成17年5月9日(月) 午後7時30分から
- ② ところ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・「子育てを考える」のまとめ
指 導：兵庫教育大学 別 惣 淳 二 助教授
内 容：まちづくり計画への提言

(9) 第9回検討委員会

- ① と き 平成17年6月6日(月)
- ② ところ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・今後の計画づくりについて
・ワークショップ
テーマ：まち観察について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：「まち観察」のコースと確認すべきところについて

(10) 第10回検討委員会

- ① と き 平成17年7月9日(土) 午前9時から
- ② と ころ 芳田地区内、芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・「まち観察(タウンウォッチング)」の実施
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：「まち観察」と課題等の整理と発表

(11) 第11回検討委員会

- ① と き 平成17年8月4日(木) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・芳田地区まちづくりアンケート調査票について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：芳田地区まちづくりアンケート調査表の内容について

(12) 第12回検討委員会

- ① と き 平成17年10月5日(水)
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・芳田地区まちづくりアンケート調査結果について
・ワークショップ
テーマ：地区課題と目指すべき方向について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：今までの意見集約の確認
追加すべき課題等の検討
地区まちづくり計画の目指すべき方向の検討

(13) 第13回検討委員会

- ① と き 平成17年11月15日(火) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：計画の将来像について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：キャッチフレーズ、計画の柱について
土地利用構想図について

(14) 第14回検討委員会

- ① と き 平成17年12月5日(月) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：キャッチフレーズについて
計画の柱について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：キャッチフレーズ(2案)を決定
計画の柱(2案)を検討

(15) 第15回検討委員会

① と き 平成18年1月23日(月) 午後7時30分から

② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室

③ 内 容 ・全員で協議

テーマ：土地利用構想について

キャッチフレーズについて

計画の柱について

指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生

内 容：土地利用構想の検討

キャッチフレーズの決定

計画の柱の決定

(16) 第16回検討委員会

① と き 平成18年2月14日(火) 午後7時30分から

② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室

③ 内 容 ・ワークショップ

テーマ：アクションプランについて

指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生

内 容：アクションプランの選定(7つ)

(17) 先進地視察

① と き 平成18年3月21日(祝) 午前6時50分から

② と ころ 徳島県勝浦郡上勝町：月ヶ谷温泉 月の宿

③ 内 容 ・先進地視察

説 明：株式会社いろどり 代表取締役副社長 横 石 知 二 氏

上勝町 参事 星 場 眞 人 氏

内 容：いろどり事業について

ゼロ・ウェイスト事業について

有償ボランティア輸送サービス事業について

平成18年度

(18) 第18回検討委員会

① と き 平成18年4月26日(水) 午後7時30分から

② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室

③ 内 容 ・ワークショップ

テーマ：アクションプランについて

指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生

内 容：アクションプランの優先順位の決定

アクションプランの具体的内容について

(19) 第19回検討委員会

- ① と き 平成18年5月25日(木) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：アクションプランについて
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：アクションプランの具体的内容について

(20) 第20回検討委員会

- ① と き 平成18年6月30日(金) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：アクションプランについて
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：アクションプランの具体的内容について

(21) 第21回検討委員会

- ① と き 平成18年7月31日(月) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・ワークショップ
テーマ：計画書について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：土地利用構想について
計画書の内容について
住民説明会の開催について

(22) 住民説明会

- ① と き 平成18年8月31日(木) 午後7時から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・住民説明会の開催

(23) 第22回検討委員会

- ① と き 平成18年9月29日(金) 午後7時30分から
- ② と ころ 芳田の里ふれあい館 大集会室
- ③ 内 容 ・計画書の内容について
指 導：樋口都市設計代表 樋 口 信 子 先生
内 容：計画書の内容の最終確認

芳田地区まちづくりアンケート調査結果



法太の里“ゆめ”委員会

★アンケート調査結果のお知らせ★

私たちの住む西脇市では、市民が主体となってまちづくりに取り組んでいく「参画と協働のまちづくり」を目指しています。そのひとつとして、市内各地区においてまちづくり計画を市民主導で策定しています。

芳田地区では、地区内の各種団体から選出された委員で構成する「法太の里“ゆめ”委員会」を設置し、地区の将来を創造する計画づくりに取り組んでいます。

本年9月、地区のみなさんのまちづくりに対するご意見をお聞きし、計画に反映させていくため、年齢・男女別に600人を抽出しアンケート調査を実施しました。お忙しい中、たくさんの方にご回答をいただき、誠にありがとうございました。アンケート調査の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

平成17年12月1日

法太の里“ゆめ”委員会

委員長 寺 北 建 樹

● 芳田地区まちづくりアンケート調査 回収結果

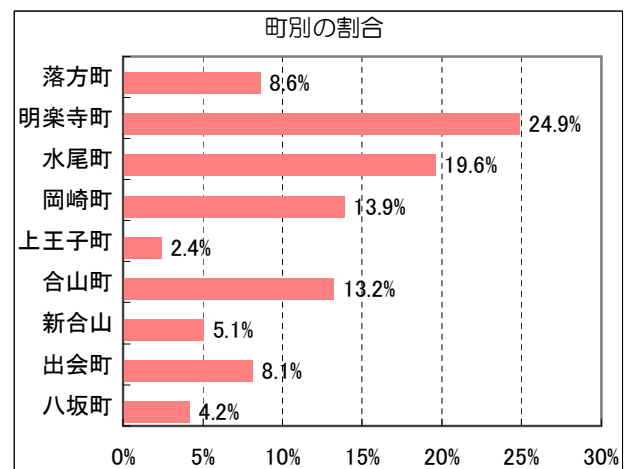
町名	配布全数	実配布数 a	回収数 b	回収 不能数	回収率 b/a (%)
落方町	52	52	39	13	75.0%
明楽寺町	126	126	113	13	89.7%
水尾町	118	118	89	29	75.4%
岡崎町	82	82	63	19	76.8%
上王子町	11	11	11	0	100.0%
合山町	71	71	60	11	84.5%
新合山	73	73	23	50	31.5%
出会町	37	37	37	0	100.0%
八坂町	29	29	19	10	65.5%
計	599	599	454	145	75.8%

※ アンケート実施日:平成17年9月1日～9月11日

全体の回収率については、多くの方のご協力により高い結果となっています。

○ 町別の回答数と割合

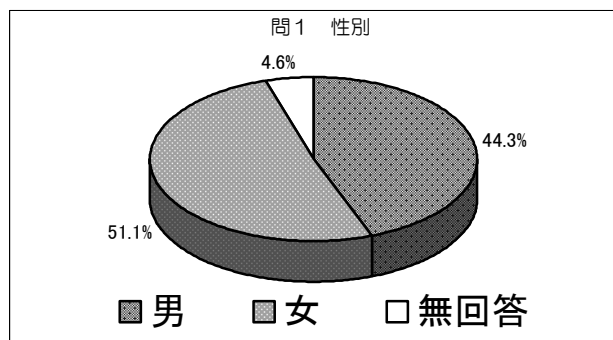
町名	回答数	割合
落方町	39	8.6%
明楽寺町	113	24.9%
水尾町	89	19.6%
岡崎町	63	13.9%
上王子町	11	2.4%
合山町	60	13.2%
新合山	23	5.1%
出会町	37	8.1%
八坂町	19	4.2%
計	454	100.0%



各町・自治会の世帯数の割合で調査票を配布したため、明楽寺町・水尾町などの回答数が多い結果となっています。

問1 あなたの性別は。

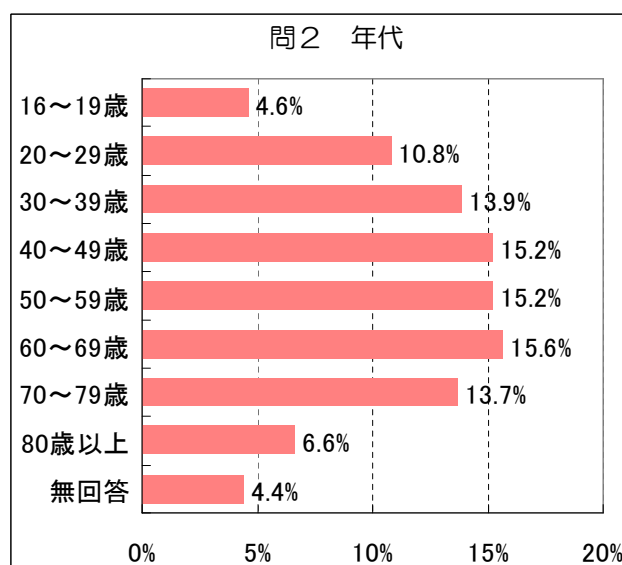
性別	回答数	割合
1 男	201	44.3%
2 女	232	51.1%
3 無回答	21	4.6%
計	454	100.0%



男女のバランスのよい結果となっています。

問2 あなたの年代は。

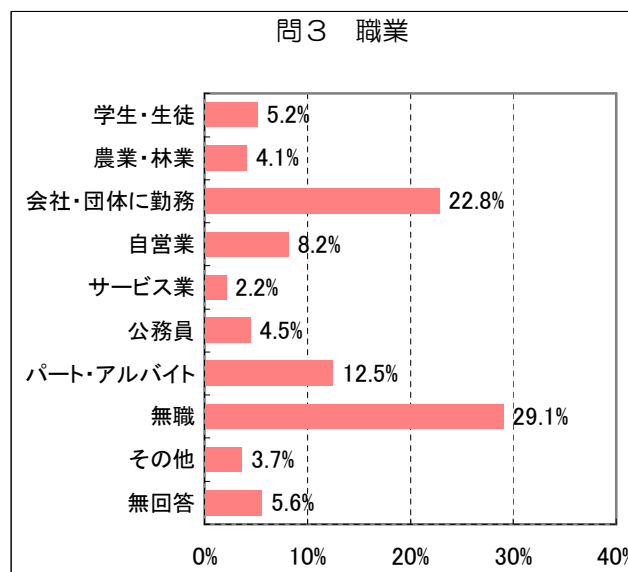
年代	回答数	割合
1 16～19歳	21	4.6%
2 20～29歳	49	10.8%
3 30～39歳	63	13.9%
4 40～49歳	69	15.2%
5 50～59歳	69	15.2%
6 60～69歳	71	15.6%
7 70～79歳	62	13.7%
8 80歳以上	30	6.6%
9 無回答	20	4.4%
合計	454	100.0%



10～20歳代の回収が若干少ないですが、全体的にはバランスのよい結果となっています。

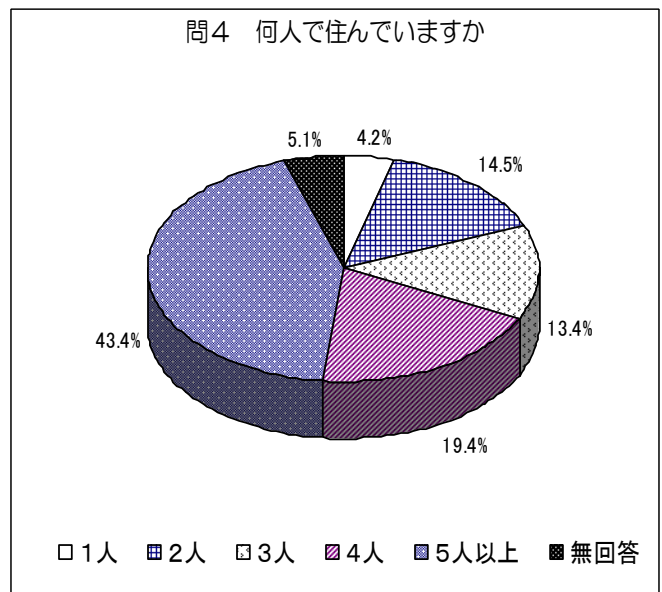
問3 あなたの職業は。

職業	回答数	割合
1 学生・生徒	24	5.2%
2 農業・林業	19	4.1%
3 会社・団体に勤務	106	22.8%
4 自営業	38	8.2%
5 サービス業	10	2.2%
6 公務員	21	4.5%
7 パート・アルバイト	58	12.5%
8 無職	135	29.1%
9 その他	17	3.7%
10 無回答	26	5.6%
合計	454	97.9%



無職、会社勤務のポイントが高く、農林業従事者が少ない結果となっています。

人数	回答数	割合
1 1人	19	4.2%
2 2人	66	14.5%
3 3人	61	13.4%
4 4人	88	19.4%
5 5人以上	197	43.4%
6 無回答	23	5.1%
合計	454	100.0%

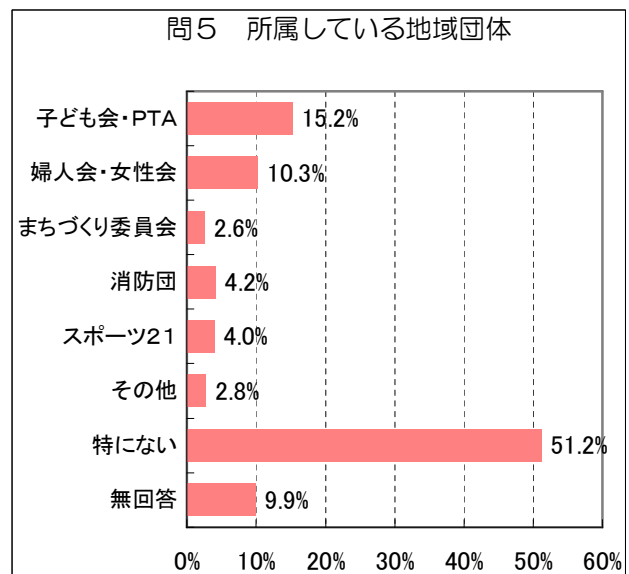


別途、年齢別にみても、60歳以上163人の内、一人暮らしは12人（9%）で、61人（46%）が5人以上となっており、芳田地区は3世代居住が多いと推察されます。

※ 統計資料の調査では、西脇市全体で5人以上世帯は18.4%、芳田地区は24.6%となっており、多人数世帯が多いことが、芳田地区の特徴となっております。

問5 自治会・老人会以外であなたの所属されている地域団体は。

団体	回答数	割合
1 子ども会・PTA	77	15.2%
2 婦人会・女性会	52	10.3%
3 まちづくり委員会	13	2.5%
4 消防団	21	4.1%
5 スポーツ21	20	4.0%
6 その他	14	2.8%
7 特にない	259	51.2%
8 無回答	50	9.9%
合計	506	100.0%



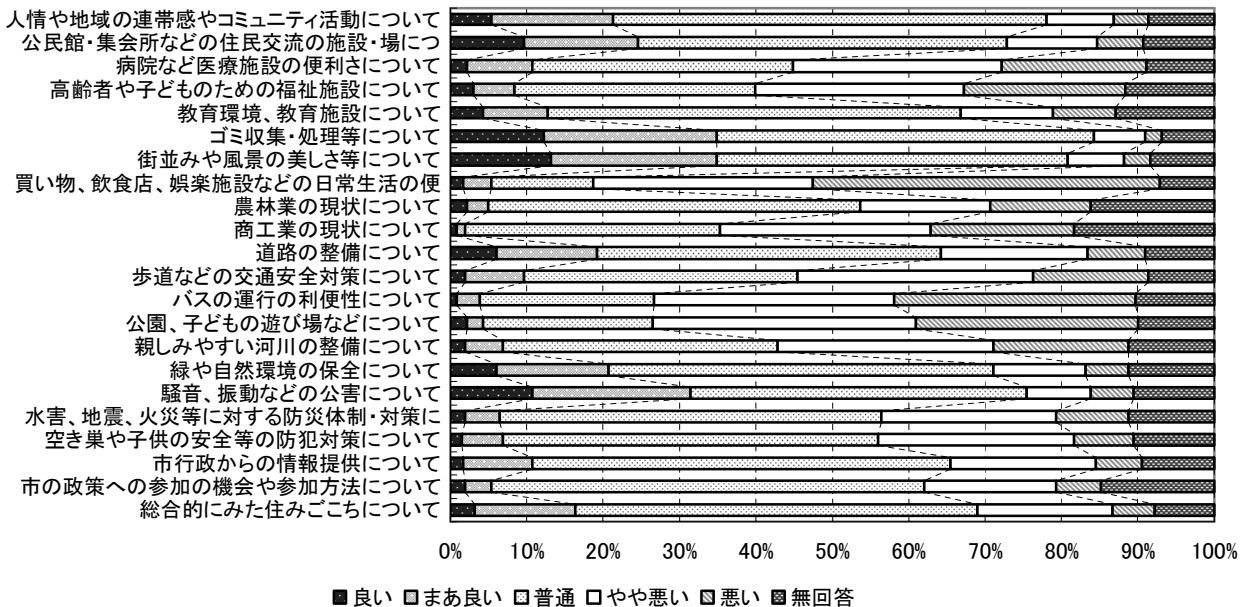
老人会が含まれていないため、子ども会、婦人会・女性会、消防団の上位3つを合わせても30%に満たず、住民活動への関わりが、どちらかというと薄いと思われます。



問6 あなたは芳田地区の生活環境についてどのように感じていますか。

項目	良い	まあ良い	普通	やや悪い	悪い	無回答	合計							
1 人情や地域の連帯感やコミュニティ活動について	25	5.4%	74	15.9%	263	56.7%	41	8.8%	21	4.5%	40	8.6%	464	100.0%
2 公民館・集会所などの住民交流の施設・場について	45	9.7%	69	14.9%	224	48.3%	55	11.9%	28	6.0%	43	9.3%	464	100.0%
3 病院など医療施設の便利さについて	10	2.2%	40	8.6%	158	34.1%	127	27.4%	88	19.0%	41	8.8%	464	100.0%
4 高齢者や子どものための福祉施設について	14	3.0%	25	5.4%	146	31.5%	127	27.4%	98	21.1%	54	11.6%	464	100.0%
5 教育環境、教育施設について	20	4.3%	39	8.4%	251	54.1%	56	12.1%	38	8.2%	60	12.9%	464	100.0%
6 ゴミ収集・処理等について	57	12.3%	105	22.6%	229	49.4%	31	6.7%	10	2.2%	32	6.9%	464	100.0%
7 街並みや風景の美しさ等について	61	13.1%	101	21.8%	213	45.9%	34	7.3%	16	3.4%	39	8.4%	464	100.0%
8 買い物、飲食店、娯楽施設などの日常生活の便利さについて	8	1.7%	17	3.7%	62	13.4%	133	28.7%	211	45.5%	33	7.1%	464	100.0%
9 農林業の現状について	10	2.2%	13	2.8%	226	48.7%	79	17.0%	61	13.1%	75	16.2%	464	100.0%
10 商工業の現状について	4	0.9%	5	1.1%	155	33.4%	128	27.6%	87	18.8%	85	18.3%	464	100.0%
11 道路の整備について	28	6.0%	61	13.1%	209	45.0%	89	19.2%	35	7.5%	42	9.1%	464	100.0%
12 歩道などの交通安全対策について	9	1.9%	36	7.8%	166	35.8%	143	30.8%	70	15.1%	40	8.6%	464	100.0%
13 バスの運行の利便性について	4	0.9%	14	3.0%	106	22.8%	146	31.4%	147	31.6%	48	10.3%	465	100.0%
14 公園、子どもの遊び場などについて	10	2.2%	10	2.2%	103	22.2%	160	34.5%	135	29.1%	46	9.9%	464	100.0%
15 親しみやすい河川の整備について	9	1.9%	23	5.0%	167	36.0%	131	28.2%	82	17.7%	52	11.2%	464	100.0%
16 緑や自然環境の保全について	28	6.0%	68	14.7%	234	50.4%	56	12.1%	26	5.6%	52	11.2%	464	100.0%
17 騒音、振動などの公害について	50	10.8%	96	20.7%	204	44.0%	39	8.4%	26	5.6%	49	10.6%	464	100.0%
18 水害、地震、火災等に対する防災体制・対策について	9	1.9%	21	4.5%	232	50.0%	106	22.8%	44	9.5%	52	11.2%	464	100.0%
19 空き巣や子供の安全等の防犯対策について	7	1.5%	25	5.4%	228	49.1%	119	25.6%	36	7.8%	49	10.6%	464	100.0%
20 市行政からの情報提供について	8	1.7%	42	9.1%	254	54.7%	88	19.0%	28	6.0%	44	9.5%	464	100.0%
21 市の政策への参加の機会や参加方法について	9	1.9%	16	3.4%	263	56.7%	80	17.2%	27	5.8%	69	14.9%	464	100.0%
22 総合的にみた住みごこちについて	15	3.2%	61	13.1%	244	52.6%	82	17.7%	26	5.6%	36	7.8%	464	100.0%

問6 芳田地区の生活環境について



①良い点

「ゴミ収集・処理等」、「街並みや風景の美しさ等」及び「騒音、振動などの公害」は、良い・まあ良い・普通の合計がそれぞれ84.3%、80.8%、75.5%と非常に高くなっています。また、「総合的にみた住みごこち」も約7割の人が満足している回答になっています。

②悪い点

「病院など医療の便利さ」、「高齢者や子どものための福祉施設」、「買い物、飲食店、娯楽施設などの日常生活の便利さ」、「商工業の現状」、「歩道などの交通安全対策」、「バスの運行の利便性」、「公園、子どもの遊び場」が良い・まあ良い・普通の合計が50%に満たない結果となりました。特に、「買い物、娯楽施設…の便利さ」は良い・まあ良い・普通の合計が18.8%と最も悪い結果となっています。

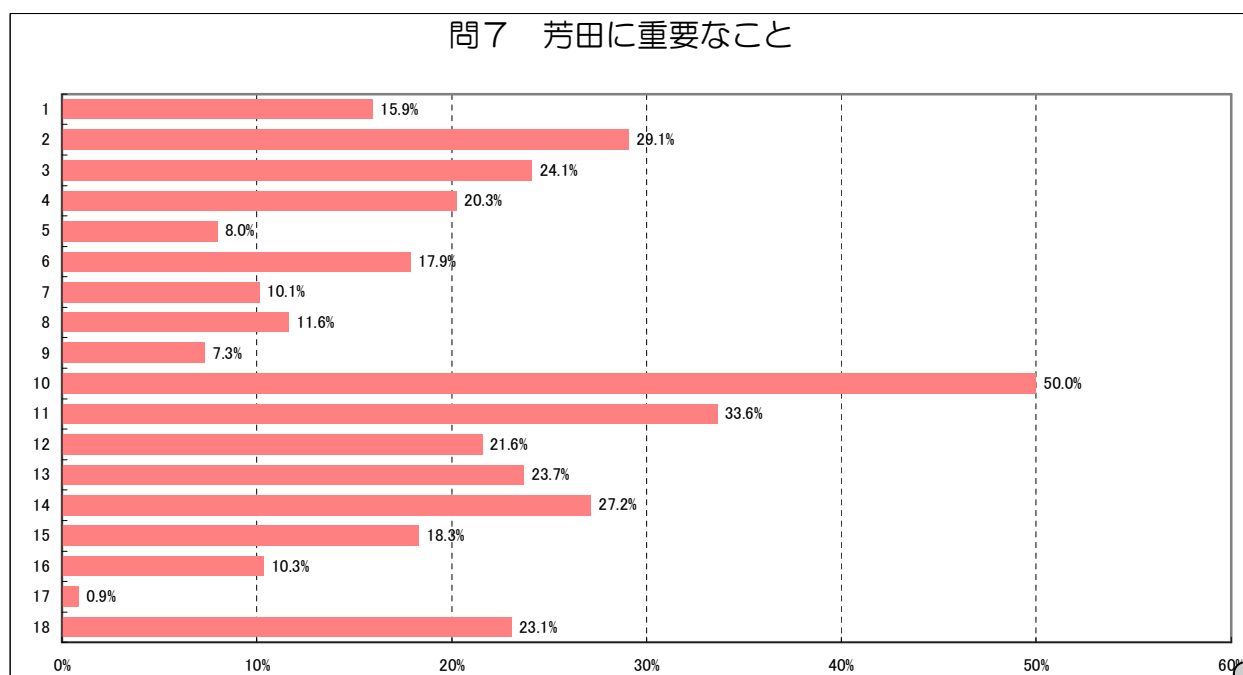
また、「公園、子どもの遊び場」「バスの運行の利便性」も30%に満たない結果となり、芳田地区の課題であると考えられます。

③その他

意外な結果の一つとして、「親しみやすい河川の整備」の良い・まあ良い・普通の合計が42.9%であり、委員会の意見として「野間川は住民の親しみやすい場所」のイメージが強かった割には、ポイントが低かったことがあげられます。

問7 これからの芳田地区のまちづくりには何が重要であるとお考えですか。

項目	回答数	割合
1 住民が集うイベント等を実施し、コミュニティ活動を実現すること、また、そのような活動のできる場所や施設を設備すること	74	15.9%
2 高齢者が安心して暮らせるよう、助け合い運動を積極的に行うこと	135	29.1%
3 子育てしやすい施設や支援活動、子どもとのふれあい活動を充実させること	112	24.1%
4 スポーツができる場の整備と指導者養成	94	20.3%
5 学校教育に地域住民が参加し、自然や地域の文化、昔の技術等を伝承すること	37	8.0%
6 自然環境の保全と田園景観、集落の街並み景観などの維持・保全	83	17.9%
7 農業を基盤とした特産品の開発	47	10.1%
8 新しい地域産業創出に向けての検討（企業誘致、リゾート地の整備等）	54	11.6%
9 観光・名所づくりとPRできる店の出店	34	7.3%
10 近くで買い物ができる店の出店	232	50.0%
11 安全な通学路の整備と安全運転の徹底	156	33.6%
12 便利なバスの運行、またはそれに代わる公共交通システムの導入	100	21.6%
13 河川や道路などのまちの美化、不法投棄の解消	110	23.7%
14 震災、水害、火災などに対する防災対策	126	27.2%
15 地域ぐるみの治安維持のための防犯対策・防犯活動	85	18.3%
16 定住人口の増加のための住宅地の整備	48	10.3%
17 その他	4	0.9%
18 無回答	107	23.1%
合計	1638	353.0%



この設問は、問6と関連しており、問6の課題の解決を見出すものです。
ポイントの高かった項目は、「近くで買い物ができる店」、「安全な通学路の整備と安全運転の徹底」であり、問6と一致しています。

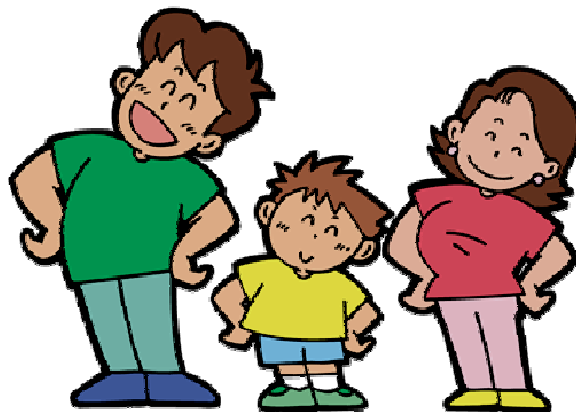
年代別に集計してみると、各年代とも共通して最も多いのが「近くで買い物…」となっていますが、30代以下では70.7%と非常に高く、若い世代が他の世代より買い物等の利便性を強く求めているといえます。2番目以降については、30代以下で「安全な通学路…」3番目が「子育て…」となっているのに対し、40～50代では「安全な…」「防災対策…」「高齢者…」、60代以上で「高齢者…」「安全な…」となっており、各年代の生活特性に見合った項目が上位となっています。

また、町別に見てみると、合山町では「安全な通学路…」が第1位、岡崎町では、「高齢者が安心して…」が第2位、明楽寺町では「スポーツができる場の整備…」が第2位で「便利なバスの運行」が第3位とそれぞれの町によっても課題が異なっていることがうかがえます。

問8 地区の誇り・今あるもので活用したいもの、新たにチャレンジすべきもの

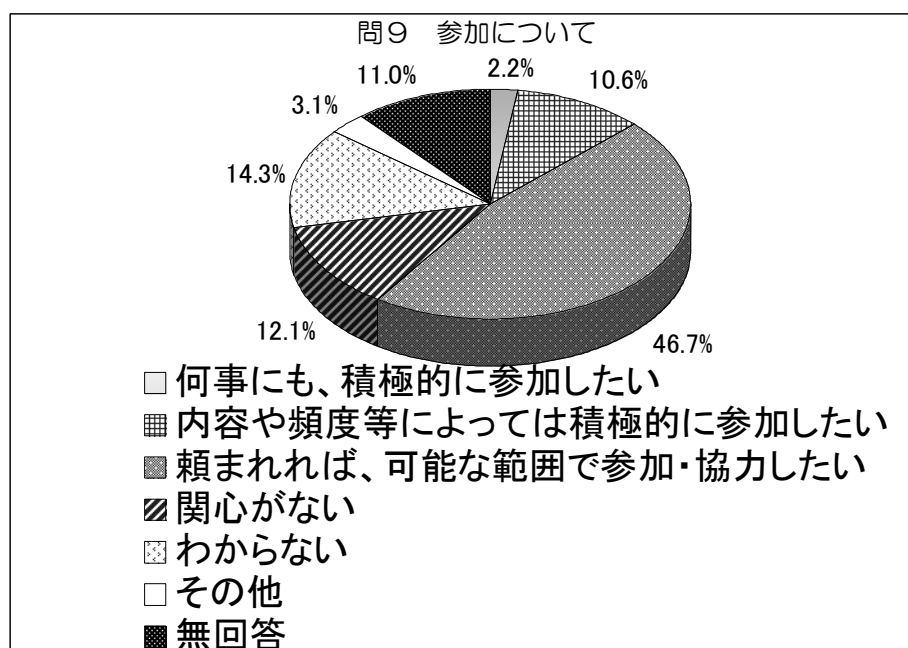
町の誇り・今あるもので活用したいものの意見については、馬事公苑や神社やお寺を活用すべきという意見や自然や野間川を大切に守るべきという意見が多くありました。

新たにチャレンジすべきものに対する意見については、コンビニなどのお店を希望する意見が最も多く、その他では、農産物や樹木などを使って特産品の開発をしてはどうかという意見、住宅開発（特に若者向け）に関する意見が多く、地域課題を解消したいという意見が多くなっています。この項目での意見については、問 10 の自由意見と重なる部分が多くありますので、問 10 のコメントも参考にしてください。



問9 これからのまちづくりには住民参加が不可欠だと思いますが、あなたはどのようにお考えですか。

項目	回答数	割合
1 何事にも、積極的に参加したい	10	2.2%
2 内容や頻度等によっては積極的に参加したい	48	10.6%
3 頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい	212	46.7%
4 関心がない	55	12.1%
5 わからない	65	14.3%
6 その他	14	3.1%
7 無回答	50	11.0%
合計	454	100.0%



別途、年代別で集計してみると、40～50代の中堅層で、「積極参加・内容等によって参加・頼まれれば参加」の3つを合わせると約70%となり、他の世代に比べて高く、参加意欲が高いといえます。

一方30代以下では3つを合わせても55%にとどまり、「関心がない」という意見が18%と高くなっており、次世代に「住民参加」をアピールする必要があると考えます。

60代以上では、わからない・その他・無回答が多く、年齢による体力の衰え等により参加したくてもできないという意見も多くありました。

男女別で集計してみると、3つを合わせた割合が、男性63.7%、女性60.8%で男性の方がやや参加意欲が高いといえます。一方、男性では「関心がない」と答えた方が15.4%と女性よりも約5%も多く、女性では「わからない」が19.0%と男性よりも約9%も多くなっており、どちらかというとなりの方が意思がはっきりしている傾向にあります。

問10 自由意見

88名という多数の方から多様な意見が寄せられましたが、中でも50代の方が18名と最も多くなっています。各年代から数名～10数名の意見が寄せられました。

その内、10代はほとんど「お店が欲しい」という意見でしたが、中には、ゴルフ場の景観を良くすることもまちづくりの一つではないかといった問題提起もありました。

各世代を通じて「コンビニ等の誘致要望」、「通学路の未整備区間が危険で整備すべき」、「野間川を活用すべき」等の意見が多くありました。

また、30～40代からは、子どもの遊べる明るい公園・広場、学校開放、学童保育を望む意見が目立っています。

まちづくり委員会の花づくりやイルミネーションに対する感謝の意見や協力の申し出が相当数ありましたが、一方では古い習慣が残り暮らしにくい、行事が多すぎるという批判も複数あり、改善を検討する必要性が感じられます。

また、若い人の定住を望む意見や住宅・企業誘致を望む意見がある中で、今のまま美しく穏やかな芳田であってほしいという意見がありました。

ユニークな提案としては、「こうのとりの会（お見合いのようなもの）」の設置、「川柳を子どもたちと一緒に楽しみたい」などの提案がありました。

地域資源として「馬事公苑の活用」や「社寺やお寺を大切にすべき」という意見が多くありました。

ほかには、自然や野間川への意見、農産物を生かしたものづくりなどの意見がありました。

◎まちづくり計画に関するご意見等を下記へお寄せください。

発 行 法太の里“ゆめ”委員会

お問い合わせ先

★ 〒677-8511 西脇市郷瀬町605 西脇市役所 まちづくり推進室

TEL 22-3111 内線 319 FAX 22-1014 メール machi@city.nishiwaki.hyogo.jp

★ 〒677-0065 西脇市岡崎町 172-28 芳田の里ふれあい館

TEL・FAX 27-0658 メール houta-fureai@city.nishiwaki.hyogo.jp